

王さまの文章

かつて仲よかつた四人

現在デレウのやりとり出来たのは一人

一人は早く亡くなった

今一人は不明 このデレウは使われて

いそぎんしに存していら

その不明といわれたい人から私事

王さまの手紙 五通 毎年の習慣がある

連筆で 何かの仲礼だと言う おくやうだ

たり 晴々のやみやだうだり

王さまのほとさきさき 一着にふん

筆さばきのすばらしさは さすがに習字の

先生の字だ

いづれい どうしていふか

特別仲よかつた 現在デレウのやりとり

可能の彼もた 信らし

この手紙の送らうとした

もういふ人にとわらわ

たしが過去はいふ人が 連筆のふでさば

王さまの知るか出来たりも

習技はともかく

まきかやほ 何としてもおしい

母後には保護 出来ずか

二ん不言がわりの人がいふのさ

と思ろが そのようにならば 母の力が

通常 今の世の中は 古いものだけ 力が

母の力もこれだけ

了ら一履 ぶかえしてやる

今とつておいても いつかは知方の

逆を右にまわす

2023
3/27